

文久四年一月九日より文久四年一月十二日まで

P8311072 right

九日亥 雪意

笠原年賀に來り兒等へ年玉あり、酬品を附与す、木村へ轉進賀(巨鱗三尾)使遣す、出 殿、万葉太夫來り当年は此方年番に付、紋附一領乞受度旨申聞に付、小袖を取らせ、且例の通り米一升残式拾足遣せし旨、牛姑年賀に來り、半衿に白石硯筆一对、白粉(おしろい)凧等品々贈られ一杯を

勸し旨、亜引合地券と両都兩港延期承知書付、□櫓の儀に付、重_三尹堀伊賀より、二時限り御用狀到來、是は本日既に書翰さし出す事

十日子 雨意

菊池轉進賀(魚數□)の使遣す、出 殿、須崎(常)年玉(菓一折)と柳亭より年玉(半切一套)持來る、寺山

刀劔持參志願筋頼聞る、過日示せし白毛皮を返し、且志願筋に付、少の心附品遣す、猶又函館行殘として下げ緒を贈らる

P8311072 left

十一日丑 濃陰

寺山此話の志願筋にて來る、山本(直)初て來り面す、保三義黄窪坂街へ年賀に行く黄窪へ話法(一本)を返し、且両家へ柱曆□遣す、菊池へ新川酒樽代駄賃とも為持遣す、木村へ蒸菓子一折牛込へ鮪一重奉書紙二帖、姑へ衿袖口家内へうら衿に 並婢■懸け根懸け奴へ巾を為持歛児年賀に遣し婢たつ随従一泊明日、坂街黄窪へも行く積り木村より出懸け其外小品酬來りし旨、従者より報告、且牛込にて夫々心附有りし旨、寺山今願同様の儀にて、また來る

旧北堂の次房

模様替に付、匠工を呼ぶ、本日出仕の面々四時□にて、御具足御祝有し、万石以下布衣以上

詰合の□

御餅被下

十二日寅 陰

寺山志願筋にて喜太三紹介を以、文書に逢う旨にて來る、宅調、富沢(大)來る、後斎叔母年賀に來れる由(とて)

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。

【判読不可】、■は、文章の一部に汚れ、虫食いにより文字が無い等です。